

令和2年度 アクションプラン報告

◇アクションプラン1 (うんと考える子・・知)

重点課題	◆ 活用・探究型授業の実施						
具体目標 数値指数	・学期毎の複数時間設定の問題解決的な学習や新聞を活用した学習の実施率100%						
今年度の 取組	・問題解決的な学習(調べる・まとめる・伝える)や新聞を活用した学習を計画的に実施する。						
結果	<p>問題解決的な学習や新聞を活用した学習の実施率</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">実施率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2学期</td> <td>89% (9学級のうち8学級で実施)</td> </tr> <tr> <td>3学期</td> <td>100% (9学級のうち9学級で実施)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※特別支援級を2学級を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2学期は実施できなかった学級があったが、3学期は全学級で実施することができた。 ・2学期に複数回、問題解決的な学習に取り組んだ学級は3学級あった。 ・実施した教科は国語科、社会科、算数科、理科、生活科、家庭科、総合的な学習の時間、自立活動であり、多くの教科・領域等で実施することができた。 	実施率		1・2学期	89% (9学級のうち8学級で実施)	3学期	100% (9学級のうち9学級で実施)
実施率							
1・2学期	89% (9学級のうち8学級で実施)						
3学期	100% (9学級のうち9学級で実施)						
最終評価	<p>【問題解決的な学習について】</p> <p>○子供同士で学び合う場面が増えた。(調べ活動、発表、意見交流等)</p> <p>○仮説を立て、調べたり体験したりしたことで、筋道を立てて考えることができるようになってきた。</p> <p>○他教科、特別活動で学んだことを生かして考えを深めることができた。</p> <p>○友達に説明するときの言葉が増え、分かりやすく発表できるようになってきた。</p> <p>△子供が主体的に探究できる課題の設定や評価が難しかった。次年度も互見授業等の研修を積み重ねていく中で、実態に応じた課題設定ができる力を身に付けていく。</p> <p>△個に応じた支援が難しく、学習意欲を向上させられなかった。次年度は一人一台の端末を有効に活用し、個に応じた支援の充実及び学習意欲の向上につなげていきたい。</p> <p>【新聞を活用した学習について】</p> <p>○国語科、社会科や朝の会の教師の話の中で、新聞記事を継続的に紹介したことで、世の中の出来事を身近に感じ、自分事として捉えるきっかけとなった。</p> <p>○新聞を学習に取り入れたことで、文章を読んだり、分からないことを調べたり、自分の考えを書いたりするきっかけになった。</p> <p>○新聞記事の活用をきっかけに、九州豪雨災害の募金、赤い羽根共同募金を、子供たちが主体となって行うことができた。</p> <p>△低学年はまだ読める文字が少ないので、新聞を読んで考えることが難しかった。読める文字が少ない低学年には、ふりがながふってある新聞記事や子ども新聞等を活用していく。</p>						
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習は難しい取組ではあるが、互いに協力し合い、アイデアを出し合うとてもよい機会になると感じる。今後は、地域の人材を活用した問題解決的な学習に取り組んでほしい。 ・自分のこととして捉え、自分の生き方を見つめ直す課題の工夫も必要であり、子供たちの自己肯定感を高める手立てになると考える。 						

B

◇アクションプラン3 (つよいからだの子・・体)

重点課題	◆ ゲームやメディア利用の目標設定																																
具体目標 数値指数	・週に一度、教師がゲームやメディアとの付き合い方の目当てをもたせる実施率90%以上																																
今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会で専門家からの指導を仰ぎ、ゲームが心や体の健康に与える影響について理解する。 ・毎週水曜日に子供が自分で取り組めそうな工夫や目当てをカードに書く。 ・1ヶ月を通して、メディアコントロールカードの目当ての実践がすべて「できた」であった子供の名前を給食時に放送で紹介する。 																																
結果	<p>○メディアコントロールの目当てをもたせて帰すことができた割合は、どの学期も目標を達成することができた。</p> <p>○メディアコントロールを意識して実践できた子供の割合が上昇した。(9月 29%→1月 51%)(水曜日4回、「できた」とすべて答えた子供の割合である。一つでも「まあまあ」と答えた子供の数は含まない)</p> <p>・メディアコントロールの目当てをもたせた実施率</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> <th>全校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1学期</td> <td>79%</td> <td>99%</td> <td>95%</td> <td>100%</td> <td>99%</td> <td>99%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>99%</td> <td>99%</td> <td>96%</td> <td>99%</td> <td>99%</td> <td>98%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>3学期</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>98%</td> <td>99%</td> <td>99%</td> <td>100%</td> <td>99%</td> </tr> </tbody> </table>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1学期	79%	99%	95%	100%	99%	99%	95%	2学期	99%	99%	96%	99%	99%	98%	98%	3学期	100%	100%	98%	99%	99%	100%	99%
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																										
1学期	79%	99%	95%	100%	99%	99%	95%																										
2学期	99%	99%	96%	99%	99%	98%	98%																										
3学期	100%	100%	98%	99%	99%	100%	99%																										
最終評価 A	<p>○富山大学山田正明先生を招いての学校保健委員会はインパクトのある講演内容であり、「メディアコントロールをすることで、自分の脳を守りたい」という子供たちの意識が高まった。自主的にメディアコントロールデーを週に2回にしている子供も出てきており、意識の高まりが見られた。</p> <p>○メディアコントロールカードの目当ての実践がすべて「できた」だった人を給食時の放送で発表したことが効果的だった。また、その際、実践した感想や達成するためのアイデアを紹介することで、目当てを達成しようとする意欲につながった。</p> <p>○メディアコントロールカードが効果的だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1ヶ月毎のカードにしたことで見通しをもつことができ、自分を振り返ることもできた。 ・1ヶ月を通した成果を保護者も意識することができた。 ・「できた・まあまあ・できなかった」の3つの段階があり、振り返りがしやすかった。 <p>△メディアコントロールの目当てについて、実際に時間を設定するなど、より具体的な目当てになるように指導していく必要がある。</p> <p>△メディアコントロールデー以外の日には、長時間メディアの利用をしている子供がいるので、コントロールの必要性について、発達段階に合わせて啓蒙していく必要がある。</p> <p>△メディアコントロールの黄色の紙に書かれた保護者の言葉や子供たちの言葉を保健だよりや学年だより等で今後も紹介していきたい。</p>																																
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアコントロールデー以外の時間の使い方が課題である。学校と保護者が連携を図りながら実施方法を検討していくことがさらに必要である。 ・親自身が子供のメディア使用に関して悩んでいるように思う。保護者の実態を把握し、保護者を巻き込んだ対策を考えていかなければならない。 ・家庭では、本を読んだり、友達と外で遊んだりすることが、脳によい刺激を与え、学力向上につながると思われる。家庭での過ごし方を考えてほしい。 																																

